WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

Jan. 7
1888
no. 91

明治二十一年一月七日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

第九十一號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 91, JANUARY 9TH, 1888.

第九十一號

EDITORIAL :—On Re-Marrying, Widows, and Old Maids.

LEADING ARTICLES:—On Care of Health by Mr. H. Kato, Ex-president of Imperial University; Secret of Well-Dressing and use of Cosmetic, by Rev. K. Kimura (concluded).

CRITICAL NOTES:—"Kojo Bi Dan Sabaku no Hana" (Elizabeth, the Exile of Siberia); "Tsuzoku Rikwa So Dan" (Popular Science Book).

MISCELLANIES:— "Lift up Your heads, for Your Redemption draweth nigh;" Early Rising; Dressing Etiqutte.

NOVELS: — "Last Days of Pompeii;" White Lotus: A novel.

BIOGRAPHIES:— The Late Mrs. Craik; Madame De Staël, Kesa.

CARRESPONDENCES:— Meditation on the Close of the Year 1887.

GENERAL NEWS.

●社說 再嫁、寡婦、及老孃(第三)老孃とは何者ぞ

●論說 衞生のこゝろ(加藤弘之述)○金屋の秘訣(木村熊二)

●批評 孝女美談沙漠の花、通俗理科叢談

●叢話 爾曹首を翹よ盖はあんぢらの價近づけば也○早起の利益○禮服一覽表

●小說 奔彪榮華の夢(奔府の二紳士)白蓮談(今の若者には困る〳〵)

●佳傳 クレーク夫人○マダムデスタル○袈裟夫に代つて死する事

●寄書 年の終りの安息日の歌(月の舎忍)

●新報 三十件

●珊瑚の珠 (第四十七回)

○ビクトルヒウゴ曰く十八世紀は男子の問題にして十九世紀は婦女子の問題あり今や婦女子の運動ハ法律の前に立つて同等を得んとを要し風習の下に臨んで其束縛より脱せんとを求め倘ほ自立の好機會に近づき智識上の敎育を收め人身財產の正權を得んとを欲す

Happy New Year.

恭賀新年

嚴本善治

○シェクスピア曰く婦人をして驕慢あらしむるものは其の美容あり女子をして尊からしむるものは其女德あり

○ヘンリー、ワード、ビーチャ曰く余が確信する所ろの論據ハ是あり即ち尤も安直に尤も容易に且つ尤も自然にして且つ適當したる所の方法を以て公共の事務を改革せんと欲せば先づ女流に共同の勢力を與ふるに如かず

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

クレーク夫人之肖像

女學雜誌第九十一號　明治二十一年一月七日發兌

社説

○再嫁、寡婦、及び老孃

（第二）老孃とは何者ぞ

花の色はうつりにけりな徒らにわが身世にふるながめせし間に、と歎じて關寺の邊りに吟行したる小町は蓋し老孃ならん、買はんか買はんか老馬の骨を買はんかと呼かけて關白を驚かし左る荒れたる樓に昔を忍んだる淸女も亦蓋し老孃ならん、老孃の我國に存するは決して近年に至つて初まりたることにあらざるなり。然るに西洋には五十六十の娘あり白髪の老頭香油を塗り皺くちやの臉にヱクボを製造し切ては齋藤實盛君に出遭はんとして待構ふる老年の姫君もあり、現に日本に渡來せる西洋婦人方の中にも二十三十にして尚ほ獨り者たるは珍らしからず現に築地橫濱の邊に四十歳五十歳の孃君をも往々にして見掛ることあるが如し、西洋人中に老孃の多きと異に驚くべきが故に扨ては老孃と云へることは西洋の新風俗と共に初て我國に輸入したりと思ふものもあるべし。成程之は尤もなる見立にして今日世人が初めて之に心附きたるは決して無理ありとは思はず、たゞ〳〵之に心附きて此風俗の異に由て起る所ろを悟らず中には之を異似として往々悲しむべきの誤りに陷るものあるに至つては實に以て氣の毒の至りと存ず。

玆に小野小町と云へる娘君あらん年も早や宜きに達し釣合も實に似合しきとし世話するものありて目出度在原業平君の許に嫁ぎ玉へりとせば小野と云へる名字は其日限りと相成り當日よりは改めて在原の小町若しくは在原夫人と稱し參らするを習らひと爲す、然るに小町孃君は之を何か不見識の樣に思はれ一生人に嫁せずして始終其の本姓を稱し名札の上に小野の小町英文にてはミス、コマチ、チノと書いて人に誇り玉はんとするは、眞に詰らぬ些細の好みにてはあれども世上驕慢の女秀才中には間ま斯る談を聞て多少の愉快を感ぜらるゝ向もあるべし。此故に一生ミス某と名乘り男子の厄介には成らぬ、夫などは決して持たぬと宣言して獨立獨行不羈自由の女丈夫と爲り一年又一年と過き行くが内に初は年の勢にて少しは花の顔とも見奉りたる花顔も今は漸くに衰へ果つ玆に至り鏡に對して臉に紅するともエリサベスの才も尚ほ其色を挽回するあたはず則はち口惜しくも只だ老孃の名をのみ冠ることと成るもの也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

然るに斯樣なる不心得の女子今まや往々にして日本の社會に出現せんとす。吾人其の心の中を察するに彼等ハ老孃と云へることを甚だ擧れなるもの丶如く思へり、又彼等ハ西洋人が止を得ずして老孃と相成れるの由緣を承知せざるが如し、又彼等ハ西洋人が止を得ずして老孃となり止を得ずして老孃となるが故に切て之を名擧なるかの如く裝ふのお化粧を看破し得ざるが如し、必竟ずるに老孃の習はせたる近年初て西洋より新舶來したるものと認るが故に則ち亦た此の老孃の由て起る所の元因を知るの暇まなく、女權伸張の論に眼を暗まし女丈夫獨立の策に心を動かすの餘り只だたわれたる外形の自由に迷つて遂に老孃たらんことを決心するにてあるべし。吾人ハ斯の如き誤りをして吾が姉妹の間に行はれしめざることを矢ふ。抑も西洋に於て老孃の多き由緣ハ一にハ男女の數平均せずして大抵女子の人數男子に越るが故にあり二ッには女子の人數多きが故に登用試驗自から六かしく天然の醜婦人もしくは本來の氣儘者は自から結緣の運に出會ふこと少きが故にあり而して此外にハ女流の改革女權の伸張等に奔走拮据するが爲めに其の運動上の都合よりして止を得ず夫妻和樂の情を犧牲にし一生獨身にて暮らさるゝ有爲の女子も亦之れあるべし然れども此等ハ至つて小數なり。故に西洋にて老孃の多き元因にハ大抵以上の三つある如く而して此の三の元因に付ては世上の人多くは既に之を承知せらるゝが如し、然るに更に一條の尤も大切なる關係ありて世に止を得ず老孃を出すの理あることを辨ずる者なきが故に則ち往々にして吾姉妹方をして故意に老孃たらんことを決心せしむるが如きの誤をば生ずることなれ。

云く、世上濃情の女子にハ或ハ失望によりて一生復た緣事を思はざるものあり或ハ其望を滿足するの相手なきが故に知らず〱躊躇して遂に年の老ゆるものあり共に止を得ざるに出づ決して初めより獨り暮を名擧とし老孃の尊きことを鼻にかけ自ら氣取つて故意にミス某と名乘るものにハあらざる也。蓋し愛情の尤も濃かなる女子ハ其の思を凝すことも亦た甚だ強大なり左れバ一旦思ひ初めて或る男と結婚の契約を爲したらんのちハ全身の愛情悉く郎の上に集まり見る所のもの聽く所のもの風景、音樂、鳥の聲、虫の鳴く音、何れも郎を思するの媒とならざるハなし斯て祈を捧げて即ち郎の安全立身を願ひ指を屈して合卺の當日を待つに當り不幸にして此の契約何かの事情に由つて悲しくも破れたらんにハ譬へバ白骨坐禪の僧が思ひ凝だる頭上の一集念突然として玆に飛散したるが如し之よ

り心氣濛々有るが如く無きが如く現世の苦樂殆んど一身の外に存するかの如く思はるゝに至るものなり。之よりして復た緣事を思ふの氣なく死んや之を口にするの念なく怏々飄々として空しく一生を送るものあり其跡に就て之を見れば固より老孃たり然れども其の老孃と爲り果てたるの由緣は則ち最初非尋常の愛情戀思の凝結して突然飛散したるが故にあるを知るべしハンナモアの傳を一覽したるものは恐くは尚明白に此の理由を悟ることを得べし。且や亦た初めより約束したるにあらず心中密かに許したるの人にして不幸にして他に緣を結ぶことあらんか、或は吾が愛情切なりと云へども之を寄するの人なく滔々たる世間の浮薄男子一もわが濃密なる切なる思を充たすに足らざるか、雙方ともに自分の望を滿足することを得ざるが故に或は失望し或は不滿足に感じ或は只だ世をあきらめて以て獨居することあらん、皆な何れも止を得ざるに出づ。之を以て此如き人々は尋常の女より愛情更に濃かにして琴瑟の樂を悟ると更に切なるものなりたゞ夫れ其理想高く需むる所ろ深きが故に容易に緣事を諾さず而して一旦其意中の人を獲るの望を失ふときは復た他を顧みざるの決心あるを得るなり世人西洋婦人中ミスと名乘るものを見て其人甚だ愛情に淡薄なりと思ふならば之れ大なる誤りなり其人愛情に淡なるにあらず實は非常に濃厚なるのみ。此故に斯る止を得ざる不幸の出來事の爲に遂に老孃と爲り果つるものは其人現にミスと稱し老孃と唱ふると雖ども吾人の眼よりして之を許するときは是亦殆んど一種の寡婦なりと云ふべし蓋し心中に造り立てたる一種の愛人の爲に節を守り之と相合するにあらずんば亦別に緣を結ばじと云ふ則はち立派なるヤモメたるが故に此の如き一種の寡婦に對しても亦た前に眞の寡婦に付て望たる所のものを要するを至當なりと信ぜり。

左れば之を一まとめにして言へば凡そ老孃は皆止を得ざるが故に起るものなり誰れか今の日本年少女子の或る者等の如く最初より現に獨り暮しに決心して密かに老孃たることを誇るが如き者あらんや。或は人に嫌はれて止を得ず老孃たるものあり斯る人は眞に憫れむべきものなり希はくは心を清くし質を美にし切ては肉體の醜を償ふ所ろあるを得ば則ち乍ちにして好緣を發見せんと疑ひなし、或は失望不滿足の爲に止を得ず老孃たるものあり斯る人は眞に氣の毒の至りなり然ども彼の眞の寡婦の如く敢て世を歎じて尼法師ともならず亦頑陋片意地なるヤモメともならず則はち心中の愛人と同行同伴

して切めて世の為に盡力し以て其心を慰さめ玉ふべし左らバ安心疑なし、或は同性女子の為に奔走して止を得ず老孃たるものあり斯る人ハ眞に御苦勞の至りなり希ハくはフローレンスナイテンゲールが看病に於けるサラマーテンが牢獄に於けるセーナのカゼリンが慈善に於けるアンナガーチーが救助に於けるエミリーフヘースフールが女流改革に於けるミスウィルラルドが禁酒に於ける如く清潔にして且つ確かに且つ熱心黽勉あれ左らバ其功疑なかるべし。

然れども今ま吾國にハ女子の數反つて男子よりも少し、不器量なるを以て全く緣事なきの憂實際にあるなし故に斯の如き由緣に因て老孃となるの必要ハ尚未だ之れあらざるを覺ゆ而して今日我國に於て婦女子の為に率先盡力あらんとせらるゝ有為の女流も今ま當分の内ハ矢張り良人あるを以て實際の運動上に種々の便益あるが如し況んや失望落膽不滿足等の為に獨居せらるゝものハ固より最初より之を望むべきにあらざるが故に凡そ斯の如き由緣に依つて老孃とならるゝものも亦た當今の日本に出現せざるを至當となす。之を以て吾人は日本明治の戸籍帳にはミス小野の小町あらんとを望まずして在原夫人多からんとを望み琴瑟和樂すると猶ほ業平小町夫妻の如きものゝ八十餘州に充滿せんとを懇願して止まざるもの也。

論説

○衛生のこゝろゑ

加藤弘之述

明治二十年十一月廿三日婦人衛生會席上演述、社員筆記。

此婦人衛生會と云ふものが出來たのは、大へん喜ばしいとで今萩野さんのお話しの通り、どうか是から段々と盛んになるように致したいとで、私の尤も望む所である。扨て今まも坪井君が言ハれた通り元來、一家の衛生は婦人の受持つべきもので、男子は始終外へ行て家の事や子供の事は餘り世話をせんものだから之は是非婦人が擔當しなければならむ、それに日本はまだ開化が遲いから男と女に大層學問の相違がある女ハ是迄餘り學問も出來なかつたから、衛生の事でも男は其理屈を知つて居るが女は知らない、だから男が斯う仕たいと思ふでも女の為に出來なかつたとが多い、然し當今は追々に衛生の事に限らず凡て女の事が開らけて來て男との隔たりが少くなつたが、中にも衛生は大切の事であるから住居のとあり食物の事あり又着物の事なり成るべく女の方々が自分で擔當なさるが宜しひ。そこで今も坪井君は家のお話しがあつたが私

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は衛生の事を少しも知らない、それで衛生の方法に付ては私
も諸君も同じ程の智識で私が諸君に講釋するようなとは出來
やしない、然し衛生と云ふものは大切なものであると云ふ道
理は十分に存じて居る其仕樣は知らんが其の効能はどんなに
多いものだと云とは知つて居る、ダカラ今日はホンノお祝ひ
の印まで、少し其事をお話し致します。

西洋には不具や病持が多い日本よりも多いと云とがある、今
日何事でも西洋のマネを仕て居るのであるに西洋には日本よ
りも不具や病持が多と云が、それでは西洋をマネるとは出來
ないではない乎、醫術も大へんに開けて居るのに、ナゼ西洋
には不具や病持が多い乎、そんなに不具や病人が多いと云ば
日本が其西洋のマネをするのは何如であらうと大層不審に思
れる。然し之はタッタ一言へバ不思議でないとが分かる、即
はち西洋では不具や病持を生して置く事が出來るほどに衛生
が進んで居るが日本では之を保つて生して置とが出來ぬから
其數が少ないのである、西洋に不具や病持の多いのは西洋は
日本より醫術や衛生の學問が進んで居るからである、今此に
ある表によつて之を見と極よく分る之は日本と西洋との不具
や病持と死人の割合を示めすものである。

日本人百人中
不具病持　二十人
此内十五人死
殘五人
合計八十五人トナル
此内不具病持　五人

西洋人百人中
不具病持　二十人
此内十人死
殘十人
合計九十人トナル
此内不具病持　十人

此はたゞ割合を示した計りて實際の人數が此の通りだと云譯
ではない、之によつて見ると西洋に不具や病持が多いのは死
なずに生て居るから多いので、日本に少ないのは夫が多分死
んで仕舞うから少ないのであると云ふとが分かる。然し西洋
にある十人の不具や病持は最早不具や病持ではない全く丈夫
の人と爲つたものであるから、實ハ西洋には不具や病持が多
いと云ふてはならぬ、生れ附は不具や病持であつたものが多
いと云ベき筈である、日本ならば死なして仕舞ものを生かし
て置くとが出來る、日本では西洋で助けるとの出來る人を死
なして仕舞、それで衛生の大切なと云ふ道理が明らかに分か
る、衛生が盛んであると死ぬべきものをも生かして置く、然
し之が盛んでないと生かして置くとの出來るものを死なして
仕舞。して見ると衛生の大切なとが誰にも分かる。（未完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○金屋の秘訣　（六）　木村熊二

如斯く人の心から放ちたる美しき德の馨ハ姿の花に無限の美麗を粧ふものなり一友人が結婚の夕余を招きて其宴に侍しめたり余其の婦人を見るに姿容ハ閑雅にして言語なとのいと温柔に覺へたれと躰面ハ餘り美しきとも見へされハ一日之を其の友に語りつるに姿容の美しきハたゞ一時の花の如にして短き春の夢さめぬれハ綠の衣ハ陰を成して子もはや枝に滿なんとすそれいつしかに秋風の立ものなれハと思ふものから姿の花より心の馨あるにしかしと婦人の美麗を賞愛するもの誰もかくこそありたけれ宇宙間にて最も美しき物躰ハまだうら若き婦人の顏容にして其の形と色の健康なる樣ハ何となく活潑にして怜悧く見ゆれハ人をして新鮮しく愛らしき感じを生せしめたり故に西洋にてハ可二八の婦人を曙の稚兒といふめりそれ臈闌て露にやぬるゝ野の花の匂こほるゝ風情に彷彿たれはなり又曙の明星とハ姿の人に勝れて美しく眼立つ樣を形容せるものなりされと其の姿容の美のみを愛せんにハ魂のなき繪畫の美人或ハ外貌のみ婀娜なる肖像を見ると何そ異る所あらんや應擧文晁か工ミ書き出せる佳人を見れハ大液の芙蓉も未央の柳もかくまでにはと思ひつれと心の馨り如何ならんと再ひ回想ハ其の美麗の一半を減殺せるものなり有名なるグリシヤの肖像は春の柳の絲たれて人を招くに似たれとも心ハ冷たき石かと思へハ色も香もなき心地こそせめシエキスピールのゴチリヤハ姿衆ミ超越て沈魚落厂の趣あれども顏と心と表裏ある不孝不貞の行爲を思へハうつろふ花の下に蛇ある心地して誰か之を爪彈せさるものあらんや又マクベス夫人の壯樓傑閣に住みわびて賓客を待遇ふ時笑容ハ掬べく軟語に從容なる樣ハ高尙に繕ひたれと心の夜叉ハ掩ふによしなく錦に包ゝめる毒石に異ならすいと可懼く感ぜしめたりされハ婦人の艶麗ハ顏色と姿容にあらすして之に相伴ふ內部實有の德義にして即ち靈の結る實なかりせハ何そ人をして眞誠の美と感せしむるに至らんや今や粧作貴紳の流行するとは都下も地方も押なへて是が習慣となりたれは他人の信敬を得んにハ先つ富貴を粧點し面躰を粧飾せすんハあるへからすと思ひ誤れり金財より大切なる良人と口にハ言へと道德の杭に繫き駐さる心の駒ハ狂ひ出し今日ハ舞蹈會朝ハ倶樂部と西に走り東に馳せて良人月俸の一半ハ細君の化粧と衣裳の費となり或ハ負財の械を良人に負せ洋裝を着し四輪車を軋し意氣揚〻たるもあれとそを智識ある眼孔を具たる人より見たらんミハ鄙むへく咲可

くして之を賞愛するに足らす況や美麗の感覺を動かさしむるに於てをや寧ろボニオンの妻かつゝりさせてふ蟋蟀鳴や霜夜み衣手薄く家には一錢の儲なきも胸裏に餘る信實と温和ある言の葉にて夫を牢獄の中に勵して其の名を社會に發揚せしめ又アイルビングの書載たる賢妻ハテーか嫁時の衣裳と手道具を賣り住馴れし華麗ある居宅と園囿を悉く人に賣渡し錦かざりし社會を退きて賤か伏屋の板ひさし心くもらぬ月を詠め讃美歌を歌ひて良人のうきを慰めたる其の勇氣と貞操は春の氷の薄き冷たき心もても巴里の時様に包まれたる婀娜めかしき婦人よりは非常に美しき風姿を想見せしめたり此等の例しはいと多けれと夫は余かこゝに喋々するを待たす人々の知り給ふ所になん婦人にして美麗の極度に達せんには豈容貌の装飾に注意するのみならんや先つかゝる相伴の美麗を養ふ事こそ肝要なれ而して其の相伴の美を養成せんにはこゝにパウロの金ある言の葉あり凡そ眞實ある事と凡そ敬ふべき事凡そ公義こと凡そ清潔こと凡そ愛す可きと凡そ善稱あると都て如何なる徳如何なる譽にても爾曹これを念ふ可し」と今や社會公衆の眼目は婦人改良にあり其の、智識を開發せしめ徳義を養成するの具は備さるなし嗚呼有爲の婦人よ外形の虚飾に心と意ひを勞し手を空しくして退く時ならんや進て實地の美麗を研き清淨にして汚點のなき色も香もある新衣裳を着して我か邦婦人社會に行るゝ卑屈にして耻へき時様を一變せすんはある可からず。（完了）

批評

(53) 孝女美談沙漠の花

中本一册（二百九十四頁）定價七十錢　發兌所東京神田小川町　集成社

此書は佛人リストウコッチン夫人の著書を淺井榮熙坂本簡藏の兩氏が重譯ありたるものなり蓋し孝女エリサベスがサイベリアに追放せられたる其父の寃罪を官に訴へ遂に目出度赦免を蒙りたるの實傳に據り當時の人情出來事を演繹して之を小說躰に書なしたるものなれば尋常架空の小說本と異り女流が一讀せらるゝに宜しきものなり。然れども譯文甚だ拙にして流暢ならず凡そ原書を讀み得るの智らひなきものには殆んど文意を解し難き所あらんとす之れ蓋し譯者が凡例中にも自ら述べられたる如く「專ら著者の文意語脈を寫さんことを勉め」られたるが故に斯かる直譯躰に失したるものならんと雖も既に其文意を寫し出さんとならば之にては甚はだ不十分なるが如し。尤も所々に註解を附し信切に講釋せらるゝものあり譯者の注意は實に讀者の嘗んで謝せざる可らざる所ろならん。

(54) 通俗理科叢談　卷一

中本一册（五十頁）定價十錢　發兌所東京本町二丁目　教育社

此書は石井よお女史の著にして地球空氣雨地震雷等を窮めて平易通俗に解き明かしたるものなり蓋し理學の一斑を俗人に味はしむるには甚だ便利なるものならん○文章は談話躰なるが語氣雄健なか〳〵に女流の口調とは思はれず發端文字學者を罵るの節に云く

なぜ困つた人だといふに文字と云ふものは食はれもせず飲まれもせず甘くも酸くもなく只だ墨で紙にかいた符牒でござるから幾ら澤山知つて居ても御膳をたべずに腹のはる事はあるまい又た病氣にならぬともあるまい其證據には昔し支那の周の世顔回と云ふ人があつてこれは孔子様のお弟子で大層なる學者だと譽められたさうだが此人は大貧乏で御膳も十分にたべず終に病氣にかゝりて夭死をしたと云ひますが其筈さどんな大學者でも御膳をたべず病氣にならぬと云ふ人がありてたまるものか

或人の序文に云く記者石井君は常々心を理學に寄せらるゝ人であり且つは教授上の經驗にも饒かなる人でありますと左らば理學専門の女流にして而して此の便利有益なる理學初歩を著はされたるなり吾人尤も之を賀せざる可らず。

叢話

○明治廿一年一月第一日　第一安息日万國共同の敎へ

爾曹の首を翹よ盖なんぢらの贖ちかづけバ也

一月一日新年の拜禮を畢り謹んで遙かに日本國中の姉妹諸君に告ぐ、諸君よ宜しく爾曹の首を翹よ盖なんぢらの贖ちかづくがゆえあり。そもく文明の德澤涯りなく行渡りて人類同等の理初めて明白となり近年わが國に於て諸君の地位の進步したるは實に莫大なり、昔しは女子を小人と同類に見做し或は之を卑しめて啻に玩弄物と爲し或は之を輕ろんじて殆んど奴隸下婢と爲しぬ。此時に當りては諸君は一個の人類として待遇さるゝことなきが故に諸君に敎育を施すは宜しからぬこと成き又諸君に自由を與ふるは不利益なること成き又諸君を世間に出し人間一と通りの交際を爲さしむることも亦殆んど惡事なるが如く成き、諸君は男子と同じく人類に生れて反つて人の爲めに使ハれ責められ苦しめられて數千年間適當の進步を爲さず遂に卑屈となり下等となり賤劣と爲りて實際男子の下に屈服せざるを得ざるの資格となり爲り玉へり。世の男子たるものにして今に至つて之を思ふとき苟くも心あらんものは誰れか諸君の爲に歎じ諸君の爲に慷慨し只だ之よりして諸君を慰さめ助け導きて以て同行同伴せんことを欲せざるもの〻候ぞ諸君希くは今少しく安かれ。然れども此れ一に文明の恩澤たり諸君先づ上帝と天皇皇后兩陛下とに奉謝し退いて能く自ら省み更に首を翹げて其の同胞姉妹の現況何如んと察せよ諸君の贖實に近きにある也。

諸君は此恩みあるの太平時代に遭ひ玉へり諸君の幸福何ものか之に過ぎん。諸君もし人の母たりや、宜しく母たるの賢德を覺悟し其子を宜しきに敎育し軟々たる其手を以て未來の大政治家大學者大事業家を撫で養ひ玉へよ。諸君もし人の妻たりや、宜しく妻たるの貞節を確守し其夫を宜しきに補助し温愛たる其眞心を以て良人を困難に慰さめ良人を繁忙に助け之を勵まして彌よ進ませ之を奬めて彌よ高からしめ能く家族を樂しくして人世に和樂あらしめ玉へよ。諸君もし年少の娘子たるか、宜ろしく學文に出精して敢て怠る勿れ然れども妄りに男らしき亂暴に陷り玉ふ勿れ苟且にも淑雅の德を損して下宿書生の風を習らひ玉ふ勿れ勉學の目的たゞ後來家を調え國を齊え公私の事すべて人の爲めに盡すに在りとの愛心を失ひ玉ふ勿れ斯て此の女學隆盛の時機に際し女兒に學文を爲さしむれバ果して斯の如き立派の人物を得たりと思ハしめ玉へ女に

學藝を仕込めバ殆んど男の如く爲つて生意氣の弊に陷いらんとの苦情を兩親に懷かしめ玉ふ勿れ必竟ずるに諸君よく愛娘たるの女徳を具へて尙且つ大に進歩し玉へよ。諸君宜しく首を翹げて自から省みよ諸君の贖實に近きに在る也。

而して諸君すでに此の太平の恩澤を悟り其身亦た大に奮發すべきとを承知し玉ひたるか。則ハち更らに頭を運らして其の同胞姉妹の有樣何如んと察せよ。日本國の女流中いまだ今日の現況を知らざるものあらざるなき乎、知るも尙ほ其の地に達するの便を得ざるものあらざるなき乎、既に大に志を立てゝ尙ほ其志を達するの道なきに苦しむの姉妹あらざるなき乎、抑も亦た同胞姉妹にして現に尙ほ男子の玩弄物たるとを甘んずるの女あらざるなき乎。果して之れありや有らバ則ハち何如にすべき諸君果して之を何如にすべき諸君を贖ふの大勢は今や一歩一歩を踏んで正に近づき來れり諸君宜しく首を翹げて大に考ふる所あれよ。

西洋の女風新に多く輸入し來れり洋服も靴もコルセットも踏舞乘馬男女交際會も皆な相並んで舶來し至りぬ此等のもの豈に悉く宜しきものならんや、東洋の女風大に消滅し去らんとす濃やかなる愛情、精細なる注意、熱心なる戀思、謙遜なる忍耐、凡そ此等の女德今まや或は輸出し去らんとす抑も如此きものの豈に悉く放ち遣るべきものならんや。諸君今ま新らたなる時代に移りて新らたなる風俗を執らんとす宜しく心じて故きを惜しみ新しきに迷ハざるの决心あるべし。

嗚呼女學進まんとす女權伸びんとす諸君の地位彌よ高からんとす世上の壓制益ず去らんとす吾人も亦此の大勢の通行を示すべき標札と爲り諸君が進路に先つの燈明と爲り以て諸君と共に正當の路を踏んで此の文明の恩澤中に進歩するを得バ幸ひなり諸君希くは首を翹よ盖なんぢらの贖ちかづけバ也。

○早起の利益

凡そ勉强するものは皆な早起の德を知り怠るものは何れも之を知らず抑も日輪天にかゝつて二六時中其光明を放つは吾等をして其間だに勞働せしめんとの天の妙令ならん然るに怠るものハ兎角晴らきを好んで光明に來らず朝晩く起きて正午に朝食を了り夜半晩食を取て十二時すぐる二三時にして初めて床に入るが如き倫敦パリの遊び人に多したとひ斯の如く甚ハだしからずとも吾等日本人は彼の米國人の如く朝々常に早く起きて爽快の感じを得たきもの也抑も早起の利益たる、

第一　健康によろし凡そ生き物は皆ふ光明の間だに於て尤も

（一〇）

榮ゆるものあり例へは窟の內の野菜ハ青くなり礦山の子供ハ十分に發達せず地下に住居する人ハ生白くなるが如し故に日陰の屯所に居る兵隊は日當りの陣に居る兵隊と同じ取扱を受け同樣の衣食を得るも尙ほ病人三倍なり（羅士亞の士官セームスワイライ氏の說）多年療へがたかりし病人を暗室より光の入る部屋へうつしたる爲に病氣直ちに直ほりたり（有名の佛國の醫者ダビウトレン）共に光が人の健康に効能多きとを證すべしフローレンスナイチンゲール曰く病人の看護に第一に大切なるは新鮮の空氣次に尤も大切なるは光なり光なくして病人を直さんとせば到底出來がたかるべしと又コレラ流行の時日當りの好き場所は日陰の町々よりも病人少し又數多の大醫の說に婦人出產の後ち日光に當ると多ければ力の附くと甚だ速かなりと、光は斯くも健康に大切なるものなれば此の光明の充滿する晝の間に於て外に出で、働らくは當然の事なり早く起きて晝中勞働するは人の義務なりと知るべし此故にジョンシンクレーア氏は長壽の元因を色々と取調へたる學者なるが其說に據れば古來長壽を得たる人數多あれども何れも皆な早起の習慣ありたる人なり尙ほ外に隨分多少衛生上の規則を破りながらも長命を得たる人ありと雖ども彼の早起すべしとの規則を破りたる人にして長生したるは一人もあるなしと以て早起の健康に大切なるを知るべし。

第二　經濟及び順序の上に宜ろしく先づ晝の間だに何事をもして夜は休息すると云ふと油の上にも力を勞する上にも其他萬端の目に見へぬ事柄に於て大ひなる得あり尙ほ一戸擧つて早起し皆打そろひて仕事を爲すなど順序の上に於て非常の効能あるものなり然るに子供は早くより起てあるに母親は尙ほ床の中にてイビキを鳴らすなど不規則も亦甚しと云ふべし故に朝さは四時もしくは五時に起き出づると定めて朝日の東天に紅すると共に直ちに仕事に從事するが如き手順を爲すを得バ一日の上に於て何程の得あらん先づ試みて知り玉ふべし。

今まや氣候寒むくして朝たに床より離るゝと隨分に困難なるものあり然れども常に早起快然と云ふ四字を記臆して勇を皷し早くより蹶然と起き出で玉ふべし況んや女流の方々をや特に此の一則を心得玉はねば相成らぬとなり。

○禮裝一覽表

左は某君が製せるものにて當今宮內出仕の人々が甚だ調寶とする禮裝心得の由し華族中山氏より寄贈ありたるに付き茲に揭ぐ盖し大禮服の時にはシャツが云々にて手套は此々

なるべし去ど承知し上下前後不ぞろいの装ひなどこれなきように心付るは亦た細君たるものゝ務めならん。

	大禮服	常通禮服　燕尾服	フロックコート
帽		高帽(シリンドル) 但食事夜會等ニハ屈伸スル高帽ヲ携ルヲ可トス	高帽(シリンドル)
上衣(コート)		無地ノ黒羅紗ニ限ル 胸部ノ釦ヲ雙行トス	無地ノ黒或ハ黒紺又ハ綾織等ヲ用ユヘシ
下衣(ウエストコート)		無地ノ黒羅紗ニ限ル 胸部ノ釦ヲ單行トス	地質ハ上衣ニ準ス 胸部ノ釦ハ單行雙行等何レモ適宜ニ任ス
袴(トローゼルス)		無地ノ黒羅紗ニ限ル	無地ノ黒羅紗又ハ縞地ヲ用フルモ適宜ニ任ス 尤モ縞地ハ目立タサルヲ可トス
襯袢(シャッ)	白色	白色	白色
襟(カラー)	立襟或ハ折襟	白色 其製ハ適宜ニ任ス	白色 其製ハ適宜ニ任ス
襟飾(ネクタイ)	白色ニテ紐及ヒ蝶様ノ分ニ限ル	白色ニテ紐及ヒ蝶様ノ分ニ限ル 地質ハ適宜ニ任ス	黒色ヲ用フ時トシテハ他ノ色ヲ用ヒ苦シカラズ其製ハ適宜ニ任ズ
沓	黒ノゴム引	黒ノゴム引	通常黒皮ヲ用フ
外套(オーバーコート)	適宜	適宜	適宜
手套	光澤アル白色ノ皮製(キッドグローブス)	光澤アル白色ノ皮製 但淡鼠色ヲ用フルモ妨ナシ	白色ヲ除クノ外各色ヲ用フ

雜則

一室内ニ入ル時ハ屈伸スル高帽ヲ屈セル儘ニテ携フヘシ
一夏ハ上衣下衣及ヒ袴等無地黒ノ薄羅紗ヲ用ヒ苦シカラス下衣ニ限リ白ノ「リンチル」ヲ用フルモ妨ナシ
一襟飾ハ白色ニ限ルト雖モ男子ノミノ參集ノ節時トシテハ黒色ヲ用フルコモアルヘシ
一白色ノ手套ハ成ル可ク清潔ノモノヲ用フヘシ
　但黒色ヲ用フト雖モ紐及ヒ蝶様ノ分ニ限ル
一手套ハ兩手ニ穿ツカ又ハ右手ノミ脱スルトモ左ノ手套ハ脱セサルヲ通則トス
一凡ソ喪ニ臨ミ或ハ葬式ニ會スル者ハ上下無地ノ黒服ヲ着シ襟飾手套等スベテ黒色ヲ用フヘシ
　但袖口胸部ノ鈕釦等モ黒色ヲ用フルヲ以テ正式トス
一上衣胸部ノ鈕釦ハスベテ懸ルヲ以テ正式トス
一夏ハ上衣及ヒ袴ハ無地黒ノ薄羅紗或ハ綾織又ハ無地黒ノ「アルパカ」ヲ用ヒ下衣ハ白ノ「リンチル」ヲ用ユ酷暑ノ時節ハ下衣幷袴共白ノ「リンチル」ヲ用ユルコアルベシ
一勲章佩用ハ略綬ニ限ルヘシ
一凡ソ喪ニ臨ミ葬式ニ會スル服制ハ通常禮服ノ部ニ詳ナリ

小說

○奔彪榮華の夢

"Last Days of Pompeii,"

英國　笠頓先生　原著
日本　青笠小史　譯述

第一章　奔府の二紳士

「イヨゥ此は臺君宜い處で御目に掛つた今夜は那の虞朗加士子の夜會で御座るが定めし君も‥‥と言懸たる一人の紳士は身材ハ低けれども年は少く軀には當時流行の長上衣を緩やかに着下だしたるが肩及が背の脇より特更に數多の襞を取らせたる杯問ずして都雅を衒ふ風流の都人士俗に謂ふ洒落漢とは見られたり。今臺君と呼懸られし其男は名を臺豪滅士と云ひ此府の紳商と呼るゝ中の一人にて年壯く軀躰も偉大と肥豊れるが此方を見て急に呵々と打笑ひしは何樣金を掉ひて交を買ひ酒を啣みて歡を求むる豪富の世間師なりと推測られぬ 臺「ヤ、苦弄日亞士君何時も御元氣でアハヽヽヽ時に今お話の虞朗加士子の夜會の案内は我等が門を行過ぎて遂に來らずサ實に近頃の殘念で内心頗る面白からずに居る所サ何か世間の評判では此宴會は實に此奔彪府中の馳走と云ふ馳走を盡して來客を酒と肉とゝ漬て仕舞ふと云ふ話しだが。苦弄日亞士は笑ひながら苦「大形に言へば先づ左樣サ、ダが毎も那家の馳走には酒の不足が第一の缺典サ何か那の虞朗加士めは居常酒を排擊しつけて、酒に醉た明る日は純粹の精神を躰外に奪ひ去られた樣な氣がするなどゝ言ひをるが一躰那漢は希臘人で有ながら其血管中に昔の希臘の血液が流動して居らんと見へる(其意希臘人に似合ずとのこと蓋し希臘人は太く酒を好む癖あるが故なり)と呟ぐを臺豪滅士は聞て眉を揚げ(何か思附たる態)臺「イヤ先生妙々併し其酒を排擊すは未だ外に一つ重要なる理由があるので一躰那漢は外見は大層に傲て居がナニ内實は案外に手薄なので實ハ醉の爲に精神を打毀されるより其爲に嚢中を打崩されるを怖れるのサ今平たく之を言ば我が才智を愛するに非ずして寧ろ酌陶を惜むのだらう。苦弄日亞士はフヽン／＼と鼻尖にて冷笑ながら聞居たりしが 苦「其だから猶我輩は彼の金力の續く間十分に馳走に成て來年は又更に別の虞朗加士を見附ける積りサ 臺「虞朗加士は又賭奕か好ださうです 苦「エヽも彼は何な遊事でも皆好ですが唯御馳走をする遊の好な間は我輩も彼を好いて遣です 臺「アハヽヽヽ實に奇絶眞に妙絶先生の一言一句は比々皆活動するから有難い。時に君ハ未だ僕の酒藏を御覽じなかッた子 苦「否未だ、臺「然らバ其の中御出下さい御一所に夕飯を喫ませう生洲にも可成な鰻が居りますしシテ其節は監察官の皤査君にも御同席を願ひませう苦「イヤ左樣な役人は眞平です、僕は説話の御馳走はモウ澤山です、アヽモウ日が暮れる、我輩は此から湯に往かぬばならぬがシテ君は 臺「我等も此から御用で主計官の宅へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

參ッて其歸りには愛西士の御殿へも參らねば成りませぬ、イヤ面白いお話しでッィ迂可〳〵手間取ました、左樣なら。

慌忙しく此場を立去る臺豪滅士の背影を見送りつゝ苦弄日亞士は笑ながら「扨ても騒々しき下識かな彼奴は自個が酒を他に喫すれば其人は醉の爲に彼奴が身分の平民たるとを忘るゝと思ふにや、良し左も有らばあれ彼奴好く余に酒を喫せなば其素性の平民たるを忘れて遣るまじきにも非ず、到底斯る金持の平民さまが吾々の困窮華族の喫物よ、宜し何程にても酒を喫せよ又金をも持來れ吾々は有難き華族の尊嚴を屈して賤しき汝等の平民と交際をなして取らすべしと獨語つゝ再び漫く々地と歩を進めて賠阿、吻美矢亞の街に入來るに往來の繁華は比ふるに物もなく滿府の士女輩各々新服を飾り新粧を凝して或は車に或は歩に己が隨意に往逆ふ衣香の馥れる扇影の閃めける紛々茸々として雲かとも見え霞かとも過たるゝ其中に少年の紳士妙齡の淑女の那の苦弄日亞士を見る毎に或は呀々と呼ぶもあり又は吻々と笑ふも有りて何づれも此の輕薄風騷なる年少華族に親昵を表はすが如くなるは蓋し此府の遊宴の社會に在りて最も好く面皮の賣れたる蔭なるべし

斯る處に前面の大道の曲角より此方に走せ來る一輛の馬車あり今往來の紳士淑女に會釋しつゝ來る苦弄日亞士の前に到りて駛行を停め車中より玲瓏たる鈴の如き聲を出して「如何に苦弄日亞士君御身は昨日の大勝利にて昨夜は定めし好夢を結び玉ひつらん。と呼ぶ人あり抑も此の馬車と此人との形象を如何にと見るに只見る其馬車は最も當時の流行に適して脫落なく造り爲したる其物に黃銅の彫刻もて飾り立たるが其彫刻は當日僅纔に遺殘たる希臘の刀法を用ひて巧に阿林伯の勝負の圖を浮彫に鐫たるを以て鏤め此に繫けたる馬は巴斯產の然も世に稀なるべき逸物にして伸やかなる細き足の駛する時は地を蹴棄てゝ空中に躍るかと見ゆるに又馭者が輕く手綱に觸るゝ時は倏如として足騒を止め四足を揃へて屹然として動かざる狀抑又石を以て造れる歟木を以て彫る歟然かも其生ありて又生無きが如くなるは巴拉吉士多が手に成りし細工物かとも疑がはるれば此の都雅なる車駿逸なる馬の主人たる年少紳士の風采と打裝とは茲にくだ〳〵しく言はざるも看者は疾に想像もて其概略を腦中に畵き玉はんが猶折角記者の眼に入たるものを言で已なんも遺憾ければ爰に搔撮みて其一二を云へば雪白の顏色藍黑の瞳子骨格は優形なれども恰好よく雅典の彫刻者に之を觀さば活潑なる美少年が偶像の摸型にとや云

ふならん褐色の頭髮の總々したる露を持つ眼中の愛々しげなる一見して其希臘人たることを知るに足らん歟然れども其昔雅典(希臘の都)の士人が其尊大を示めす爲に穿ちたる外套も羅馬の帝政熾盛に趣きたる頃より世に廢てられ殊に當時の華麗社會にて最も此を不雅の物として擯斥けたる故にや此の希臘の紳士も之を穿たず矢張當今の流行を逐ひてか帝兒の紫色の然かも濃くして其色耀ぐ迄に染做したる長上衣を長く着下し其を結び附る鎖金は翡翠玉を以て飾りたるが頸を周りて胸に至りて曲りて蛇の頭を爲し其蛇の口に精巧なる印環を啣ましめたり又其長上衣の襞は緩かにして袖と腰とに金色の摸樣を描かせ最も風流に打扮ちたる此の少年は即はち此の物語りの大立物として既に其名は讀者諸君の耳に上りし虞朗加士其人とは次の問答にて知られたり。

"A Stranger, from that remote and barbarian isle which the imperial Roman shivered when he named, paused amidst the delights of the Soft Campania and Composed this History." Lytton.

○白蓮談

第一回　今時の若い者には困る〳〵　　月の舍　忍

夜は既に十時を過たり然れども今までウットりとしたる燈火は日の出でたる如くに目を覺まして隅々を睨らみ冷え渡つたる八疊の間急かに人の氣を得て室内俄然として一陽來復したるが如し年の頃四十五六面長くして骨高く色黒うして眼尾の弔上りたる盖し轡の音に夢を破りドンの砲聲に晝寐より飛起ると云ふ用心堅固の昔武士とは見えたり袴を脱いで火鉢の向ふに嚴座し煙管を眞一文字にもたげて顋に着け吐き出す煙の旋行を見送つて沈默せり。思ふに此の老紳士の細君ならんか丸髷古風に高く白襟規則正しく現はれ肩に染出したる大紋は帯の山の頂に懸る滿月の如し裾をはねて膝を落し中腰の儘火鉢の此方に近づいて頻りに灰を掻廻はす。其傍らに足を投出したるは只だ洋服を着たるが故に嚴肅なる家風の取除けを容るされたる者と思はれ其後ろに父の脱いだる袴を擴ろげて一心に皺を伸ばし兄さん少し暗う御座いますからとも言ひ得ず辛棒する者は所謂る女徳と敎られたる心得を守ると見へたり。細君は木炭の城を建築し了り火の手の上るに安心して漸く腰を落附け

どうも今晩のは好く出來ましてネそしてまア皆さんがどうしてマアあの樣に好くお出來なさるので、私などの若い時とは大層な違ひで御座いますよ

ソウヨなア感心なものだ

ダッテ母さん今では皆なあんなものさ何もあの學校の生徒ばかしジャアないです

ソウカエそれでは猶更ら感心なことですが母さんなどは根から餘所他所へ参りませんから御當節柄のようすを少しも知りませんでネ

ナニ、ソレ、お仕舞から二番目の娘でネー洋服を着たのがあつたらうあれが今井さんと云ふのかへお蓮や

此時漸く袴をたゝみ了りて傍に置たるが

ハイ左様で御座います小學校で御一處に居りましてから早や五年ほどに成りますから大層お見外れ申しました

あれが今井さんかどうも少こし西洋の學問をすると直にあれだから困るヲ兎角此頃ろは男尊女卑とか男女同等だなどと云ふことを榮譽の様に思つて居て人の前でまで演說するとは以ての外の事だお前なども一所に學校へ行なかつたで好つたのだどうもあれだから困る

デスがあなた今夜は私もつく〳〵ろう思ひましたマア今井さんは兎も角其外の方々の中で三四人のお娘は大抵蓮と一處に小學校に居らつしたのですが夫れから引つゞひて御勉強ゆえ私などには少しも分りませんがあのようにマアそろつてお立派な演說とかお祝文とかゞ出來てそして何んで御座いますろうな來年で御卒業だとか申しますからモウ餘程後れは致しましたがどうか蓮ゝも今少し學問がさせて遣りたいと今晩は色々な罪造りを致しましたよ

ナニ詰らんとだソリヤア西洋人の様にペラ〳〵とお喋舌が出來たり少とやそつと外國の書物が讀たからと云つて一家を脩るには何程の役にも立つものジャア無い全躰女と云ふものは餘計の學問をしたり生まじな智慧が出來ると色々なとを考へて遂には身を亡ぼすに至るもので女子と小人とは養ひがたしとも申して在るほどだ、ダカラ先づ手紙や請取位が書けて當節柄の事ゆへ小新聞の論說が滞こうりなく讀める程ならモウ女の學問はそれで好のジャ夫よりも縫針仕立方とか一家の經濟の心得などを覺て何でも夫に能仕へて舅 姑の心に逆らはんようにするのが肝腎のとだ、夫に今のように娘兒が役にも立ん學問をして幾ら演說が出來たとて又あのような新聞紙の社說のような文章を作つたからと云つて何の役に立つものかあゝ云ふ嫁が來ると即はち一家滅亡の基ひで眞に恐るべきとだア

そうでも御座いませうが蓮もお友達ばかしが追々と御上達なさるのが怨めしひ者ですから此迄でも早太が宅へ歸つた時にはうるさいように頼んで少しづゝ西洋の本を敎へて貰ひましたようですが此頃では大層讀めて參りましたとか早も申して居ります、私も女が何もそう學文を爲なくても一と通りの事さへ心得て居りましたら何處へ片付てやりましても愧かしうは在ますまいと存じて居つたので御座いますがどうも皆さんがあのようにずん〳〵とお進みなすつて何方も〳〵もそう學文がお出來なさると爲て見ますとホンニ此ばかりが人並に外れまするようで眞に可愛相だと存じ附きましたから今晩は私からあなたにお願ひを申上て是から少しづゝ稽古をさせて遣つて戴きたいと思ひまして、、、、

ヒッコイ事を言ふ奴ジヤナー、われに修業をさせて好いなら手前などの敎しへは待んわ、手前までが流行の風に醉うから早でも蓮でも少しも己の敎の通りにならんのジヤ男女七歲にして席を同うせずと云ふとがあつて假令ひ同胞にしてもアンナニ大きく成つたものが狎々しくするもので無いと云ふて聞かすとさへ守らない、今日ヤア男女交際會ダノ、ヤア舞踏會ダノ、と云つて男と女が禮儀もなく近づいて遊び狂るうと云ふは實に國家滅亡の元で己は歎息に堪へんとだ、ダカラ蓮にしろ若し今時の女學校に遣つて此樣な惡るひ風儀にでも染込まれたら手前などは何うする氣ダ、今でさへ中々言ふとを聞かんで兎角男らしくなるものを此上學文をさせたり世間に出させたら何樣なると思ふのジヤ、ダカラ早も來年からは塾を退かせて宅から通學をさせる積りた、どうも今時の若いものには困る〳〵己などの弘道館に行つた頃の事を能く考へて見るが能いワ。

佳傳

○クレーク夫人の傳

本號の第一葉に掲げたるは近日死去ありたる有名の英國女小說家クレーク夫人の肖像なり夫人の小說は世上に其聞かまびすしければ凡そ英文を讀むものは誰れとして其の名を聞かざるものなく尚ほ英國倫敦の貧民社會に於ては屢ば夫人の救助を請ひ得て之に親近したるも多かるべしとは云へど其の外には蓋し夫人を知るものの最も少かるべし是れ其の大方は家に隱

れて公けの集會などに出席せず甚だ閑靜幽邃の住居を好まれたるゆへあり。其著書數多あるうちに尤も名高きは彼のションハリハックスゼントルメンと云へるものにて夫人が尙ほミウロック孃と云ひて年やう〳〵三十の比に作られたるものなり後に至りラグベーの鐵道災難の時知人クレーク氏太たく重傷を負ひて孃の家に荷ひ込まれ養生あり孃は信切に之を看護ありたるが其緣みに由りて後に妹脊の交はりを取結ばるゝに至りぬ。去年は六十一歲にして永逝ありたるが分けて此の二十年が程は特更らに力を凝めたる著作をもせず只だ時々の雜誌に小品を投せられたる程あれば今時の人々には夫人の豐才を十分に承知せざる者あるべし然れど今ま其の永く逝くの日に當りては東西の讀者皆な一齊に昔を懷ひ起して痛惜せざるはあらじと思はる。

○マダム、デ、スタルの退去

古今の英傑ナポレヲンボナパートをして夫人にして若し吾が志を贊成したらんには吾が事を爲す更らに容易なりしならんにと歎ぜしめ、當日の知れものラッセ夫人をして吾れ若し皇后の權あらんには終日終夜夫人をして傍らに侍べらしめ其快談を聞かんと羨やましめ、其比の學雄ギッボン、シユレーゲル等の徒をして夫人を文學會中の星と仰いで其文才會話に舌を卷かしめ、其が揮ふ所ろの一枝の筆は女流第一の著作を出し佛蘭西革命の先鞭と成りたるなんど、吾人が今より之を望み見て遙かに敬服に堪へざるは彼のスタル夫人なり。

夫人はナポレヲンが人權を蔑がしろにし自由を束縛するを惡みて其小說中に太たく之を攻擊し激し易き佛民の怒りを彌よ激怒せしめんとしたれば彼の百万の兵を掌の中に動かし拔山の大戰を物の數ともせざるボナパートをして密かに大に戰栗せしめ遂に夫人に退去を命じてパリの都城を去る四十レキウの外に追放てり夫人之よりして四方に漂流し至る所ろに佛帝の亂暴を訴へ又た暇ある每に書を著はして彌よ專政の罪を攻擊したるが故鄕の天は世に之よりなつかしきはなし時にはパリの境界近くに立歸つて空しく都の雲を眺めたりとぞ斯て屢ばナポレヲンよりの內意ありたるを退けて終りに至るまで節を屈せず遂に「余は終始熱痛し又神を愛し父を愛し自由を愛したり」"*I have always been the Same, Intense and Sorrowful. I have loved God, my father, and liberty.*"と叫びて空しく失せたりとぞ其傳記の精細なるものは異日之を揭ぐべし只だ天下を憂ふるものは當さに夫人の誠忠なるが如く誠忠なるべきを

思ひて先づ其はしがきを記るすと云ふ。

○袈裟、夫に代つて死する事　月下小史

むかし京都の衣の里にあとまとなん云へる娘あり其母を衣川と云へるに付けて娘を袈裟と異名しけるとなん青黛の眉芙蓉の眸いと氣高くして綠の簪雪の膚楊貴妃李夫人も及ばじと見ゆ左れば深窓の內に扶られて既に人と成りたるとき軒端の梅の匂いと芳ばしく庭上の花まことに細にして我もくと心をかよはす多かる中に並の里に源左衛門尉渡とて一門なりけるが內外につけて申ければ恥しからぬと也とて遣はしけるに互の心淺からずして早や三年になりぬ袈裟はことし十六にて月の漸く滿ちたるごとく又た花のわずかに蕾を展きたる狀にて毛嬙西施の再誕か觀音勢至の垂跡かと人の云ひけんも理ぞと見えし然るに袈裟とは從兄弟にてことし十七に成りける遠藤盛遠と云へるが渡邊の橋供養ありけるときかい見て目くれ心消えその比ろ春の末なりしに秋の半までは臥しゐて案じける漸う思ひ澄して九月十三日の朝まだき母の衣川がもとに伺ひ行き姨母御前はなど吾をころさんとし玉へるとて刀を女の胸にあてゝ怒りけり姨母は驚きつゝ御邊は妾の甥にして孤子とありてよりはわが子の樣思ひ居れるになどかゝると爲してんそれ誰人かのさかしら言ならんと云ふ盛遠は眼をいからして吾れ三とせ前に袈裟を申うけんと云へるに渡がもとへ遣りて吾を戀ゆゑにころし玉はんとするは何ごとぞと云ふ母は思の外なれば驚きたれどやうやう落居て申けるは御邊の望かくまでとは思はで身貧なれば何方へとも心定まらざりし內に渡は奪ふ如く取りゆきしかば力なし今まも箇程に思玉ふとあらば安きことなり刀を納め玉へ今夕よびて會せんと云ふ盛遠はよろこびて家を出けり母は硯引よせて袈裟のもとへの文をかき忍ではしませ申し合ふべきとはべり寡なる身には墓なきとのみ侍り返々も忍でたゞ一人おはしませと申遣しけり袈裟は取上見て心細き御文の樣かなとて胸打ちさはぎ女の童一人具して假初に出る樣にて母のもとへ來れり母はつくくと娘の顏を見てはらくと泣て手箱より刀とり出し此を以て我を殺し給へとて與ふ袈裟は大に騷ぎて是は何事にか御物狂はしく成り給へるかと顏うち赤めて居たり母は今朝盛遠が來てさまざまに振舞へるときかして和御前ゆゑに武者の手にかゝりて亡んよりは憂目を見ぬさきに和御前われを殺せよと云ふ袈裟限りなく歎きたれどきつと心定めて母上御思を安め玉へ妾よしなに計はんとて其夜盛遠の來りたるとき妾渡に相馴れて今年

(一九)

三年になり侍りけれども折々につけて心ならぬ事のみ侍れば母上の仰の背き難さに今迄候バかり也誠に淺からず思し召すとならば只だ思切て渡の首をとり玉へ互に心安らんと云ふ盛遠はいつはりぞと知らで甚たく喜びければ袈裟云ふ樣妾家に歸り渡に髪を洗はせ酒に酔はせて高殿に伏せしめんなればぬれたる髪を搜りて御身之をころし玉へと云ふ盛遠喜んで夜討の支度しけり袈裟は家に歸りて酒を儲け渡と共に飲かはしていたく酔はしめ帳臺の奥にかき臥てのち髪を濡らしたぶさに取つて烏帽子を枕に置き帳臺の端に臥して今や今やと待つところに夜半ばかりに盛遠忍やかにねらひ寄りぬれたる髪をさぐりてたゞ一刀に首を斬り袖につゝみて家に歸りなうれしやと開き見ればこは無慙やな袈裟が夫にかはりて死したる首なりけり一目見るより倒れ伏し聲も惜しまず叫びけれどつく〴〵と諸法の無常を觀じ三寶の利生を得て有漏の肉情を化脱しつゝ翌日渡が家に行きて始終をかたり吾が首を落してよと刀をなげ出してひれ伏しけり渡も愛妻を失ひて此世の望みなつき果てこれぞ觀音優婆夷の身を現じて我等の道心を催さしめ玉ふなりと觀じつゝ髪をきりたれバ盛遠之を七拜して身も亦た髪を下ろし後には文覺上人とて利根聰明に有驗世に勝れたる高僧となりにけり袈裟はかねての覺悟なれば消息こまごまに書きて手箱に入れ形見に留めたる末によろづ細やかに申し度侍べれども落る涙に水莖の跡見え分かずとて「露深き淺茅が原に迷う身のいとゞ暗路にいるぞかなしき」十七年の冬の夜の玉の緒かくぞ消えにける。

寄書

○年の終りの安息日

としのをはりの、きよき日に
このひととせに、天のみち
こゝろのとくは、つよからで
ひにひになやむ、たびびとの
はるかに見ゆる、天のくに
つかれしひとを、はげませと
されどよわきぞ、たのみなれ
しのびてゆかむ、をはりまで

月の舍しのぶ

かへりみすれば、いくばかり
たびして得しぞ、いたましゝ。
つみのおもひは、さりがたく
おへるおひめぞ、いとをもし。
かゝやきわたる、ゑいこうの
あゆみはおもく、すゝみなし。
主なるきみは、いとつよし
われらのみちは、かぎりなし。

●新報

○東洋英和女學校　去年十二月廿二日午後七時より同校にて閉校式あり英詩英文の暗誦唱歌奏樂會話等何れも前年に立勝て見ゑたり
○横濱フェリス女學校　去年末同校にて和漢學の卒業生七人あり即ハち長谷川みね、星野孝、矢島待世、濱口なみ、石井かね、吉田たよ、松田きみなり
○日本赤十字社　同社にては常議會の議決により新に特撰幹事を設け之を平山成信氏に委囑せり又地方委員長及副長を囑托せる諸氏ハ左の如し
大阪府委員長建野郷三○副長今井良一○崎玉縣委員長 吉田清英○副長長谷川敬助○宮城縣委員長松平正直○副長和達孚嘉○愛知縣委員長 勝間田稔○副長柳本直太郎○神奈川縣委員長沖守固○副長三橋信方○青森縣委員長 鍋島幹○副長森昭治○福井縣委員副長本部湊

○日本赤十字社集會　今回前の博愛社總長小松宮殿下日本赤十字社の總裁を領せられ又同息所殿下ハ篤志看護婦人會幹事長を領せられたるを以て去月十七日午前十一時兩殿下とも同社に臨まれたるにより理事員常議員及篤志看護婦人會幹事其外參社せられ社長佐野常民氏より同社の記事摘要を捧け親しく事業の景况を言上し畢りて上野精養軒にかて兩殿下御歸朝の祝賀と忘年會を兼ね祝宴を開き參會員三十餘名宴酣にして小松宮殿下は祝詞を演へられ佐野社長衆員に代りて答辭を述べ次ぎ又祝詞を述べ右畢りて衆皆歡を盡して散會せり（官報壹三五〇號抄出）

○レース教塲卒業生　東京府所轄レース教塲に於て今回第八回定期試驗を執行し去月廿六日全科程卒業者十一名、第二期科程卒業生五名、第三期科程卒業生十八名に卒業證書を授與せり（同上）

○叙任　鳥山啓氏は華族女學校教授に任ぜられ奏任官六等に叙し年俸五百圓下賜又同校教授津田梅子氏ハ年俸六百圓下賜せらる

○看護婦教習所　東京慈惠院看護婦教習所に於て數名の看護婦生徒を募集せらる年齡は二十歲以上三十歲以下の獨身の者にて左の試驗科目へ恰當するものなりと云ふ願書は本年一月廿日迄に差當すべき由なり

讀書　本所規則書並に翻譯文　作文　通常書簡往復　算術　加減乘除

○日本美術協會　上野公園櫻ヶ岡の元と龍池會と稱せし同會の役員は左の如く撰定せられたり

第一部（繪畫、附書）委員長下條正雄、副長前田健次郎○第二部（建築、園治）委員長山高信離、副長（未定）○第三部（彫刻）委員長今村長賀、副長岸光景○第四部（陶滋、七寶、玻璃、金屬器）委員長坂田春雄、副長松尾儀助○第五部（漆器蒔繪、繡織其他美術工藝品）委員長山本五郎、副長鹽田眞

○東京慈惠醫院　同院にては既に第三次婦人慈善會の收入金寄附を得たるに付き益々其規摸を擴張せんが爲に其の事務室を改築することに决したりと

○入學試驗　東京府構内尋常師範學校にて去十二月下旬元田學務課長立會の上高等師範學校入學志願の女子廿餘名の學力試驗を執行したり

○結婚　前號に黑田伯の令孃百子と黑川中將の令息と結婚せられたる趣き記載せしが右は誤謬にて同孃は黑木陸軍少將と結婚せられたるなりと

○靜岡女學校　同校は生徒漸次增加するに付教塲一棟を新築するよし

○宮城英和女學校　一致敎會の押川方義、首藤陸三等の諸氏は我國婦人教育の不完全なるを嘆じ何とかして一校を設立せんと望み居たる折柄米國人プールボー、オルトの二孃の自ら教鞭を執り力を婦女の薫陶に致さんと懇ろなる申出でに協議忽ち一决し假に校舍を東京一番町に設けて教授を始めけるに世人漸く婦人教育の緊切なるを覺り此頃は六七十名の生徒あり寄宿生には西洋家内の起居振舞などを教へ追々隆盛に趣くの勢あるにより東三番町に地をトし不日校舍の新築に着手する筈の由

○產婆　新潟縣古志郡中產婆の數は二百四十餘名あり今度同地醫師士屋哲三氏が產婆講習所を設立せしかば講習を願出づるもの凡そ八十餘名なりと云ふ

○高田女子談話會　新潟縣高田なる同會ハ去十二月廿三日午後七時より職人町得願寺に於て開會したりしが同日は降雨劇しく殊に夜分なるにも拘はらず定刻に集まりたる婦人三十名に近く中には遠方より來會せし婦人方も尠からず當時滯在中の中山幸世女史の席上演說あり夫より女子の教育のとに付き種々談話の末、爾來該會を隔月每に開くとに協議整ひ一同退散せるよし婦人のみの會合は同地にてこれが嚆矢なり同會に付き最も盡力せしは姬宮大圓、平原惠隆等の僧侶諸氏なりと

○高田女學校　新潟縣高田に於て東京櫻井女學校にあるツルー夫人を聘しその教員とし女子一分の教育を施すの豫定にて三四の有志者が發起となり種々相談もありて今度愈々設立する運に至り昨今贊成者の義捐金募集に着手せりと云ふ

○又　同地に於て二三の侶僧達の發起にて佛教擴張の爲め一の女學校を設立せんと過般職人町得願寺内にて會議を開きし由なるが其趣旨は現時高等小學校の教科に則り外に裁縫割烹等を教授し傍ら佛教の大意を知得せしむるの方法にて一月六日を以寺町光樹寺に於て各宗の僧侶會合して右女學校設立の件を協議するの都合なりと云ふ

○函館幼稚園　ハ客歲履縣以來全く私立に屬したるも教員武藤女史の奮發と有志の盡力により漸く元町の私立小學校内へ教塲を設け維持し來りしも追々生徒の增加せると共に小學校の生徒も益增員の見込ある等にて迚ても一校內へ二校を合併にては手狹なるより市中の重立ちたる紳士及區書記等の盡力にて別に私立幼稚園を新築し一層其規摸を擴張せんとの計畫にて目下專ら協議中なりと云ふ

○大坂產婆學校　同校ハ一月十一日より西區阿波座中通一丁目十七番地に於て愈よ開校する事に决したるを以て去十二月廿六日發起人十七名の中より其役員を撰擧せし處校長には田宮宗俊校主には杉山耕道幹事には杉之原茂廣告委員には島﨑禎彥田宮宗俊會計委員には杉之原茂佐伯一學の諸氏が當撰したるよし

○婦人交際會　靜岡の基督敎信徒が今度一の婦人交際會と云ふを設立し婦人の智見を廣ろめ貞操の美德を涵養し優美なる道義心を養成せしめんと目下相談中の由

○藤岡婦人會　前號に記るせし如く去る十二月廿三日同會を開かれ編物稽古、米國婦人を招ぐに付其費用のとに相談、石井、永井、神田三氏の演說あり出席會員三十餘人頗る盛會なりしと又世話掛、改撰に付當撰人は高山てる、鈴木ふさ、小泉りん、大塚はつ、林さた、茂木ちよの諸氏なりし由

●海外女事

○日耳曼の一職業女學校　同國の「アルキーブ」なる雜誌はウルテムボルクのレウトリンゼンに在る一女學校に附て記載せり此校は女王オルガと政府の保護の下に繁榮するものにて其主意は專ら女子手仕事の各科を充分に敎へ工手を借らずして自由に衣服其他の裁縫編物等を爲さしめんとするに在り而して其教授する所は先づ畫學にして粘土の見本及花鳥山水等の畫本より學はしめ其他簿記、商業法、及歷史文學理學をも加へて生徒の識見を廣めしむ修學年限は教師たらんと欲するもの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は二年「家事の用に充んと欲するものは一年の卒業とす生徒の年齢は十四年より二十年までにして其數近年の平均二百名なり校舎の在る所はトゥビンゲンの大學校の地に近かく樹木繁茂せる美地なり而して校の勉むる所は皆な女生徒をして向來幸福なる家を有たしめんとするにあり

此校の欠點を擧れば教師は婦人なれ共試驗者は男子にして唯其業の成功をのみ好みて其種類の用不用に心を止めさるが故に田舍農夫の女子にして似合しからぬ贅澤品に巧妙なることあり然れと此レウトリンゼン女學校は多少の過失あるにもせよ其生徒がホンガリー、蘭、瑞西、北米國、地利、等遠隔の國々まで其嘗て同校にて受けたる教育を持ち行くの事實は此校の成力を証するに足るへし

○ボストン婦人教育及職業同盟會　此活潑有爲なる同盟會は其苦員の勧甚た盛に且頗る手腕き者なり其性質たるやニウヨルク婦人交換會に似たる所あれども彼の會に比ふれは其爲す所甚た多端なり何となれば婦人の製作物を賣捌くとは此六年前にボストンに植附けられたる若く力ある大木の唯一枝なればなり

其大體の目的は婦人をして互に同心協力の精神を發達せしめ而して凡ての方向に其進歩を謀らんとするにあり故に幾分か倶樂部の形あり凡そ婦人は何人に關せず毎年一弗を拂へば其會員となるを得而して此小額の出金に依り此婦人は彼ボイルリストン街なる美麗なる客室及ひ一千卷許の書籍と多くの新聞雜誌を貯ふる書籍室とに自由に出入し得るのみならず己れの製作品を此會の賣捌所に出し且つ毎週の茶話懇談會及文學技藝等の講義に出席するを得るなり而して會員の望に從ひ此外に小額の金圓を拂へは猶ほ其他種々の特許を得るなり然れども此會の爲す所唯たに茲に止まらず昨年中其最も力を盡くせしは彼の奸商等憐むへき女子等の金を欺き取らんとて外見善き會名を作り女子に適當なる職業を與ふへしとて之を新聞上に廣告し女子の加入を促かして會費を欺取せんとするものを摘發せんと勉めし事より此奸商等は唯た辛ふじて法律の文面丈けを免かるゝの備をなし此會に加入せば容易にして利益多き仕事を與ふべしとて巧みに女子を欺むくものなりこの惡業を營むものは頗る數多きとなるが同盟會は之を憂ひ日、[illegible]千の忠告狀を發し都鄙總ての新聞雜誌に送りしか皆厚意を表し無代價にて此書を其紙上に掲けたり而して之に答ひて此類の廣告を悉く穿鑿せんと申し出つる返書を同盟會に送りしもの一千に超ねたり此穿鑿の結果は同盟會にて待ち望みたる所に等しくして此類の廣告を出す人は無職業にて家もなく唯た僅かに一二の室を有し甚だしきは唯た郵便受取函のみを有するとを發見せり而して茲に送り來る郵便物は甚た多數にして且つ多額の金圓を含めり或時此を發見して開きしに少時間に八百圓の金額を見出せりと云ふ貧女の金を掠むる甚たしきものと謂ふへし而してニウヨルク府は此惡業の中心なるが同盟會は之を世に知らしむるに功ありしものなり

同盟會は雇人を求むる者及ひ被雇を望む者の爲めに各分科を置き皆良結果を顯へし教師、帳簿、寫字、乳母其他の職業を有する者各其被雇所を得し者多し

此會は又處々に修業中なる婦女の爲めに人名簿を製し機會を得るに從つて其地位を得せしむるの法あり又會員或は他府より來る者も此會に來りて學校、講義、住居を撰むと等に附き教示を受け且つ困難の時には來り助力及助言を受くるを得るなり

「保護委員」ありて被雇女子若し不正なる給料を受くるときは之を助け主人と雇人の間に立ち温和を旨として善く周旋し法律に訴ふることは極めて稀なれ共此委員諸姉の法律に明かなると嚴正の處置を爲すを以て善く人を威服するなり

「衛生委員」ありて健康上に實際行はるべき演說をなすなり

「友待委員」は病人を訪問し之を助け、又合衆全國より書を送りて或は補助或は報知或は助言を乞ふ者に各々返書を送り、又困難に遇ひ落膽せる者を訪ひ事情の許す限りは之を保護助勢するなり

「德義心靈養育委員」は十月より三月に至るまで毎日曜日午後に會を開き何派を論せず皆な玆に來り其演說、說教を聞かしむ而して之を開き又閉つるには必ず祈禱と讃美歌を以てす其他種々毎週の會あり

又此會中親睦交際の點を以て言へはこれ亦最も有益なる方法にして其集會等にも更に貧富の隔なく富に主たるの感情なく貧に從屬の思あらず「バスケット、サッパア」とて毎月一回相會して晩餐を喫し食終れば次で講義演說あり又之れに質問して其不審を研究するとを得會員皆之を樂み其功頗る大なり此演說にて會員外にも公に傍聽を許し益を公衆に與ふるなり

職業科の賣捌高甚た多く食品及色糸織物類（重もに贅澤物を指す）賣上高去一期中にて二萬一千圓の多額に至れり其中壹萬六千五百圓即ち全額の凡そ四分の三は食物品の賣上高なりこれ物の順序に反するか如くなれ共こは色糸織物の如きものよりは食品を製するとの慥かなる業なるを顯はすなり而して此食品を賣捌場に送るものは百三十一人に過ぎざれども此色糸織物類を送るものは千百四十一人の多きあり之れに依りて見れば食物製造は少しく下等なるが如きも之を熱心に勉むるものは彼の高尙なる贅澤品を製するものに比して其利益の大にして且つ確實なるを知るべし（以上「ゴデース、レデース、ブック」抄譯）

"Either sex alone
Is half itself, and in true marriage lies
Nor equal nor unequal: each fulfils
Defect in each, and always thought in thought,
Purpose in purpose, will in will, they grow."

Tennyson.

（二二）

女學雜誌第九十一号（明治二十一年一月七日刊）附録

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

恭賀新禧

月／日	日曜表					女學雜誌發行日				
一月	一	八	十五	廿二	廿九	七	十四	廿一	廿八	
二月	五	十二	十九	廿六		四	十一	十八	廿五	
三月	四	十一	十八	廿五		三	十	十七	廿四	卅一
四月	一	八	十五	廿二	廿九	七	十四	廿一	廿八	
五月	六	十三	二十	廿七		五	十二	十九	廿六	
六月	三	十	十七	廿四		二	九	十六	廿三	三十
七月	一	八	十五	廿二	廿九	七	十四	廿一	廿八	
八月	五	十二	十九	廿六		四	十一	十八	廿五	
九月	二	九	十六	廿三	三十	一	八	十五	廿二	廿九
十月	七	十四	廿一	廿八		六	十三	二十	廿七	
十一月	四	十一	十八	廿五		三	十	十七	廿四	
十二月	二	九	十六	廿三	三十	一	八	十五	廿二	廿九

發行所　東京々橋區日吉町八番地女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　森田豊

專賣特許凸凹銅版彫刻所日本橋區大傳馬塩町十番地中川昇刻

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣告

女學雜誌社出版書目

船越鼎太郎君著
●産婦小兒 攝生法　一冊十八錢　郵税四錢

田口卯吉君結髮沿革附錄○和崎義尚君校○巖本善治君跋
渡邊鼎君著
束髮案内　美製小本八十頁細圖入　定價十五錢　郵税四錢

鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評
改正増補 文法口授　全一冊●一名和文備案内　定價十八錢　郵税四錢

鈴木弘恭君講述○山村亮作君筆記
つれ〴〵草講義　定價十二錢　郵税四錢　第一號

統計局次長世良太一君序○統計協會員吳文聰君序
朝野新聞記者横山雅男君著
婚姻論　定價一冊三十五錢　郵便税十四錢

巖本善治編
木村鐙子小傳　定價十錢　郵税六錢

中島湘烟女史著
善悪の岐　定價五拾錢　繪入美本　新刊

通信女學講義錄　毎月刊行　一冊定價廿錢全國無郵税

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

加藤鶴吉君著
○洋服裁縫新書　美装　全一冊

正價金壹圓　郵税金四拾錢
女装之部。服装石版密書彫刻、附裁形圖八葉刻成正價一葉に付貳拾錢郵税四錢

此書は專ら婦人服裁縫術の摸範となるべき通常衣服を初とし其他長短大小諸般の服装を列擧し毎條精密なる石版圖書を附し且つ平易讀み易き文章を以て叮嚀信切に之が説明をなし就中通篇一百八十餘種の服式は總て目今歐米諸邦に行はるゝもの及び當時我邦に流行する所のものにして一々世人の眼を欲ばすべき者是なり且又各條必ず需用すべき品質及び丈尺等に至るまで詳細に示せるを以て容易に服装を裁縫し得べきのみならず將來服様に何程の變更を生ずるも之を應用する難からざるべし請ふ江湖の諸君子速かに之を購求して裁縫の龜鑑とせられよ

附言　歐米諸國に於て最も盛に行はるゝ所の紙裁形に倣ひ當時彼國に行はるゝ服装と現今我國に用ひらるゝものとに據り更らに工風を新にし頗る好良無比の婦人洋服裁形を得て一の紙裁形を著して其從學の諸子に示せり是れ實に我國紙裁形の嚆矢にして其實際に便益ある洪且大なりと謂つべし世の裁縫に志ある諸彦庶幾くは江湖の諸君子之を購求せられて其便利あるを稱し賜はんことを

東京日本橋通一丁目
書肆　須原屋北畠茂兵衛敬白

●六合雜誌

毎月一回發行○半ヶ年前金五十五錢○一ヶ年同一圓○全國無遞送料

十九日發兌第八拾四號目次●耶佛優劣論(高橋五郎)●第一世拿破崙の傳(續)(和田垣謙三)●經濟新論を評す(伴直之助)●有神證據問答●德育と宗教(附たり加藤氏德育方案及杉浦氏德育の前途評)●雜記○哲學茶話○色情哲學○博士ヘンソーフヰールド氏ロボルトチンガルンル氏に送るの書○言語哲學○哲學となし○廣告

東京京橋區日吉町二十番地　警醒社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1104
J74+

THE
WOMAN'S MAGAZINE.

Jan. 7
1888
no. 91

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

明治二十一年一月七日刊行

女學雜誌

第九十一號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY